

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第6部門第3区分
 【発行日】平成22年7月15日(2010.7.15)

【公表番号】特表2009-506468(P2009-506468A)
 【公表日】平成21年2月12日(2009.2.12)
 【年通号数】公開・登録公報2009-006
 【出願番号】特願2008-539512(P2008-539512)
 【国際特許分類】

G 0 8 B 25/00 (2006.01)

【 F I 】

G 0 8 B 25/00 5 1 0 M

【手続補正書】
 【提出日】平成22年5月14日(2010.5.14)
 【手続補正1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0003
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0003】

システム内の自由度の実効的な数、つまりデータセットの次元数に関連する良く知られた複雑性測定値が多く存在する。既知の複雑性測定値の1つは、Springer-Verlag (2001) による「Artificial Neural Networks - ICANN 2001」の第857乃至864ページにおいて発表されるとともにG. Dorffner、H. Bischof、K. Hornikによって編集された文書「A Generalisable Measure of Self-Organisation and Emergence」においてW. A. Wright、R. E. Smith、M Danek、P. Greenwayによって説明されている。ライト(Wright)らは、突発的な振る舞いを見せるシステムの能力を、彼らの複雑性測定値の、システム・パラメータの滑らかな変化に比べて唐突な遷移に結び付けている。この文章では、突発的な振る舞いには、例えば捕食者が現れたことに対して魚群が突然に散らばることが含まれている。ライトらは、自分達の測定値を用いて、人口神経システム、進化的計算システム、強化学習システムを含む様々な複雑なシステムにおける、望ましい振る舞いを評価したり促進したりすることができるということを提案している。しかし、残念ながら、ライトらは、彼らの複雑性測定値がどのように他の分野に適用可能かについて気づいていない。

【先行技術文献】

【非特許文献】

【非特許文献1】 Boghossian B.A. et al., Motion-based machine vision techniques for the management of large crowds, Proceedings of the 6th IEEE International Conference on Electronics, Circuits and Systems, ICECS'99, 1999年9月5日、Vol.2、p.961-964

【非特許文献2】 Wright W. A. et al., A Generalisable Measure of Self-Organisation and Emergence, Artificial Neural Networks, ICANN, Lecture Notes in Computer Science, vol. 2130, 2001年8月21日、p.857-864